

するが、騒ぎもまたひどい。一番追われるような思いをするのは食事の時に、上の二人はどうかこぼさず食べられるが、三番目は一人で食べたがるくせに食卓や床にいっぱいこぼし、その足元へ赤ン坊が自分も食べたいとキィキィ云いながら這って来る。そこで私は、自分の食事を取りながら上二人におかずを文句の出ないよう公平に取ってやり、三番目のこぼしたのを捨てて手や食卓を拭いてやり、赤ン坊にごはんを食べさせるわけで、何だかいつも食べた気がしない。

その次にうんざりする時は寝かせる前で、まず部屋一面に散らかっているガラクタを箱に片づけさせる。といつてもなかなかラチがあかないので、私も一緒になって投げ込む。これを怠ると布団の下に積木があったりして良く眠れない。布団を敷くとそれとばかりに布団の上で三人跳ねまわるので、叱りつけながら寝間着に着がえさせるが、その時二番目の子はなかなかボタンがはずせない。だからといって、うっかりはずしてやっってしまうものなら、「一人でする〜」とひっくり返って怒る。又、三番目の先に寝間着を着せてやっても、二人が裸で飛びまわっていたりすると、マネしたくて又さっさと脱いでしまう。さらに、夜中の洪水を避けるためにトイレやオマルに追いやるが、そのすきに夕刊など読んでいたりすると、赤ン坊がオマルにつかまり立ちをしようとして、オマルもろともひっくりかえったりするので油断は出来ない。早く寝かせて自由の身になりたいと、自然恐れ顔になって取り押えていると、横で主人が、「このごろ、だんだんアサイさんに似て来たねえ。」と、いつかテレビで見た名古屋動物園のゴリラ調教師を思い出している。『うちのゴリラ』共は、生意気千万で、ろくに口のきけない三番目すら「イヤ」だけははっきり云うので、動物園のゴリラより程度が悪いが、もっとも四人そろって眠ってしまえば、こちらもやれやれと山上憶良の心境になる。だからこそ、毎日同じことを飽きもせず繰り返してられるのかも知れない。

(9回生)

ニュージャージー便り

稲村ふみ

3月末に渡米して、もう間もなく3ヶ月になります。着いた3日目の復活祭には、50年ぶりとかの大雪で驚きましたが、今はあたり一面緑につつまれております。

私の住むニュージャージーは、というより私どもの住んでいるあたりは、ニュージャージー州の東部でマンハッタンのすぐ近くです。マンハッタンのアップタウンのジョージワシントン橋から、ハイウェイを車で5分のところ。マンハッタンはビルと人の波ですがハドソン川をわたると緑の世界で、ごく一般的なアメリカ人の小ぢんまりした家屋が、おもちゃのように建っています。あた

りには水河性らしい沼や川が南北に走り、古い大きな柳がまわりをとりまいています。春先、まずその柳が浅黄色の芽を出し、続いてかえでが紅の花をつけます。やがてそれらが緑になっていくと、今まであった村や町がみえなくなり、自然の変化に驚くことがあります。

買物は今のところ大量買いこみを二週間に一回、車で5分ほどのスーパーマーケットにいきます。鮮度を問題にする卵、牛乳、野菜は近くの(徒歩4分)ストアで補いますが、値段は大スーパーで、たとえば9セントのジュースが、中スーパーでは43セント、グロサリーストアで47セントと、はっきりちがいます。

大きなスーパーマーケットは、日本の大きなデパート並みで、何から何まで揃っています。こちら(郊外)の建物は大抵一階建てですから、その広さには全く目をみはります。家での食事はごはんにみそ汁…と全くの日本食です。日本食品はニューヨークに店が沢山あり、殆んど必要なものは揃います。最近は無ジャージーにも出来たようです。そういえば日本のレストランがマンハッタンに60軒もあるそうです。いろいろな意味で合理的で主婦には働きやすく、日本もこうなるべきだと思います。(1970年6月22日) (11回生)

ネパールの人と文化	川喜田 二郎	● リ ー ジ ヨ ナ ル ブ ッ ク ス B6判 定価各四五〇円
東南アジアの漂海民	藪内 芳彦	
インドの農民生活	米倉 二郎	
高地民族の国エチオピア	鈴木 秀夫	
点と線のヨーロッパ	中川 浩一	
石の文化・木の文化	水津 一郎	
ボルネオの人と風土	海野一隆・林寿一	
ブルターニュとノルマンジー	菊池 一雅	
インド高原の未開人	佐々木 高明	
アジアの旅・東から西	別枝 篤彦	
東京都千代田区神田駿河台2-10 古今書院		